

9月13日から17日まで、僕は通訳として、島根大学と中国人民大学連携の学術研究会に参加しました。四日間の中に、中日の学生たちは双方国の農村経済発展問題を検討したうえ、現在中国の現在農村状況を知るため、北京にある爨底下村に実地調査しました。僕にとって、今回交流会をきっかけで、今後農村経済発展の問題意識を高めることができました。



交流会で日本の学生は、概要、事例、政府の政策の三つ方面から現在島根県にある農村ツーリズムの現状を発表しました。中国の学生は、中国式農場の発展と逆都市化の現状などについて発表しました。これらの課題の中で、僕は中国の逆都市化（農村回帰）に興味があります。現在中国の都市化が進んでいる中、人々は大都市に集中している一方、環境、過疎化など問題が出てきました。特に PM2.5 の環境問題については今まで有効な治理できませんでした。逆都市化の進展によって、ある程度現在の環境問題を解決できるのではないかと考えました。

学術交流会以外に、北京の農村ツーリズム（爨底下村）で実際調査も行われました。ガイドの説明を聞きながら、爨底下村の周辺を見学しました。ガイドの説明を聞いてから、爨底下村の発展の歴史がわかりました。また、見学することによって、周りの施設は古いし、食べ物の衛生面が悪いなどの問題も発見しました。日本の農村ツーリズムに比べると、中国の農村ツーリズムは地域の歴史を中心にすえていることを感じました。

四日間は短いですが、いろいろなことを体験して、中国の農村と日本の農村が違うところに気づいて、これから日本の農村経済発展の経験を踏まえて、中国の農村に役に立つことがあるのではないかと考えました。